

# 昭和35年チリ地震津波と 復興の記録・記憶

昭和35年のチリ地震津波、そして東日本大震災。  
長い間住み慣れた土地で、安心した生活をいつまでも送れるように、  
市民それぞれの記憶を風化させることなく、次の世代へ。



「チリ地震津波被災の地」碑

旧浦戸第一小学校の校門に残る「漁港災害復旧工事記念」の銘板

「災を転じて福となす」、  
島の未来を築く復旧・復興を再び。  
そして、その記憶・経験を次の  
世代へ

東日本大震災のおよそ半世紀前に塩竈市を襲った昭和35年のチリ地震津波。それは浦戸地区の全島を孤立させ、生活と産業を破壊し、本土地区にも甚大な被害を与えた。一時は「茫然自失」となりながらも力強く復旧・復興を成し遂げた浦戸地区住民。その記録は、寒風沢島の海岸、太平洋に向かって立つ石碑の碑文から詳しく知ることが出来ます。

昭和35年5月24日黎明を破って来襲した津波は寒風沢沖に面する前浜・葦浜・要ノ浜・元屋敷の各堤防を決壊し怒濤と化して揚陸せり。水田17・919ヘクタール、畠地4・506ヘクタールが埋没冠水し、倒壊家屋1戸、浸水家屋二十数戸和船十数隻大破し、電話、電灯の送電架線柱の倒壊、断線により寒風沢を始め浦戸全島は孤立化せり、島民は只茫然自失あるのみ。漁業協同組合の発議

により、区長、消防団長と相諮り津波復旧対策本部を結成、塩釜市浦戸東部漁業協同組合内にこれを設置し、被害の調査、確認、飲料水の確保、井戸の衛生消毒、通信連絡等、塩竈市役所津波対策本部との緊密なる連携を保つこと久し。これよりさき決壊堤防の復旧作業にとりかかれり。耕地の荒蕪塩害を怖れる地元住民はもとより、隣接桂島、石浜、野々島、吉津浦地区等より消防団員、一般人を含む多数の応援と、陸上自衛隊松島航空基地よりヘリコプターが飛来し被災状況の連絡にあたり。

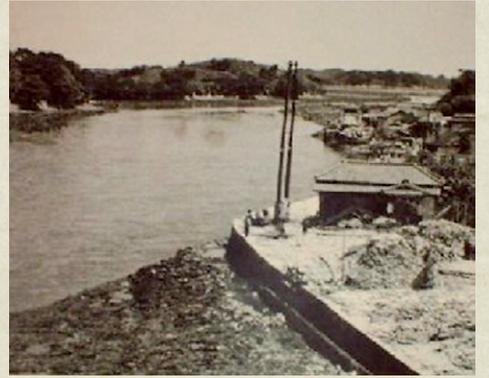
一方塩釜海上保安部内火艇、地元動力漁船により堤防復旧用米俵13000余俵を塩竈市役所水産農商課の指揮で搬入宮城原仙台土地改良事務所の技術指導に依り元屋敷堤防の応急築堤工事を完了せり。この挙に臨み、本県三浦義男知事は浦戸諸島を海岸保全法の指定地域となせり。

昭和39年7月、桃和田、元屋敷、大迎、平戸、前浜及貝ノ浜囲い、23ヘクタールを土地改良工区に定め、塩釜市浦戸東部農業協同組合営により土地改良事業が着工され、昭和40年3月完成せり。ために営農改善への端緒となりぬ。まことに災を転じて福となす喻えの如し。ここに寒風沢高潮対策堤防第一次工事の完工を記念し、チリ地震津波来襲16周年を省みて島民の復旧への情熱とこれをうけて国政に結んだ故衆議院議員愛知揆一先生の霊に捧げ人々への警鐘となす。

昭和51年5月25日



津波到達時の寒風沢水道（土井憲司氏提供）



昭和35年6月24日 市政だより (43)

### 津波の日から 深い災害の根

「この惨状を忘れずに 被害十一億円をこえる」

被害の状況 5月7日

<p>▼花巻 被害 16,400万円</p> <p>▼東日本 被害 14,400万円</p> <p>▼東北 被害 1,000万円</p> <p>▼関東 被害 1,000万円</p> <p>▼中部 被害 1,000万円</p> <p>▼近畿 被害 1,000万円</p> <p>▼四国 被害 1,000万円</p> <p>▼九州 被害 1,000万円</p>	<p>▼北太平洋 被害 1,000万円</p> <p>▼東海 被害 1,000万円</p> <p>▼中国 被害 1,000万円</p> <p>▼四国 被害 1,000万円</p> <p>▼九州 被害 1,000万円</p>	<p>▼その他 被害 1,000万円</p> <p>▼合計 110,000万円</p>
--	---	---

お見舞いありがとうございます

市政だより（昭和35年6月24日付）

チリ地震津波から1ヵ月後の市政だより（6月24日付）は「この惨状を忘れずに」との見出しを掲げ、市内各所の被害状況を写真で紹介しました。実際に津波で被害を受けた市民や広報で知った市民は、その記憶を現在に至るまで持ち続け、あの3月11日に速やかな避難行動を起こしました。

「昭和35年のチリ地震津波の時も柳浜の方から波が来た」野々島・鈴木区長

「チリ地震津波で堤防が破壊され、新しい堤防が作られた。それが今回破壊された」（寒風沢島・島津区長）

二人の区長さんも当時の記憶を語ります。記憶や経験が命を守ること、それを残すこと、伝えていくことの大切さを改めて知らされます。

東日本大震災の被害は、昭和35年のチリ地震津波をはるかに上回る規模でした。しかし、再び「災を転じて福となす」。将来、苦難をそう振り返えられることを願い、市では住民の意向を踏まえ、島の未来を築く基盤となる復旧・復興事業を地区内の各地で進めています。

浦戸地区の復旧・復興、それは「原状復旧」に止まるものではなく、より安全・安心、活気あふれる島の暮らしを実現するものです。生活、産業基盤に加えて、津波をはじめとする災害に対する防災力の強化も重視しています。復旧・復興の歩みとともに、震災の記憶と経験が次の世代へ受け継がれることを願っています。